

# ぐりふぁん letter



Vol.  
37  
2019.1

## INDEX

- ◆ 安朱保育園「地球にやさしい！おひさまプロジェクト」が始まります！  
株式会社吉川商店におひさま発電所ができました！ . . . 2
- ◆ 身近な森から感じていること  
～法然院森のセンター「おひさま発電所」と共に～ . . . 3
- ◆ 大阪での市民共同発電所設置の動き . . . 4
- ◆ 子どもたちに伝える地球温暖化 . . . 5
- ◆ 「新電力」に切り替えを！再エネはまだまだ足りない！ . . . 6
- ◆ 2018年度環境学習  
～環境学習、何を伝えるか、どう伝えるか～  
編集後記 . . . 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド



安朱保育園

# 地球にやさしい！おひさまプロジェクト が始まります！

安朱保育園は、山科駅のすぐそば、旧東海道に面した来迎時というお寺に隣接しています。初めて園長先生とお話した時「山科の保育園でおひさま発電所をつくっておられるのを、知っていたのですが、園舎建て替えを控えていたので、やっと落ち着いた今の時期になりました。」と、おっしゃっていたのを思い出します。随分前からみていてくださったんだ、とうれしくなりました。



安朱保育園は、法然上人開宗800年の記念事業として、地域の要望に応えて開設された保育園で、今年50周年を迎えます。仏教では、毎日の生活の中で自然と身につけていくことを「薫習(くんじゅう)」といって大切にされているそうですが、幼児期の環境に対する態度、心がけもそのような中から、育まれていくものと感じ入りました。

みなさまの次世代へのメッセージとして、プロジェクトへのご協力をよろしくお願いいたします。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



## 株式会社吉川商店に .....▶▶▶ おひさま発電所ができました!

㈱吉川商店は、リユースできるびんを洗浄する工場です。リユースびんの流通量は右肩下がりですが、ワンウェイ容器で飲料を流通させるよりもはるかに環境負荷が少ないリユースびんのシステムを維持するために、洗瓶は要となる役割を担っています。社長の吉川さんは、環境負荷や温室効果ガス排出など環境問題にも高い関心を持ち、既に自社で130kWもの太陽光発電設備を設置、「RE100%」(100%再生可能エネルギーでの事業運営)を目標にしておられます。



きょうとグリーンファンドにとって企業とのプロジェクトは初めてで、電気使用量が大いこと、高圧受電であること、公益法人ではないことなどから、今までとは違った枠組みが必要ではないかと考えていました。しかし、大筋はきょうとグリーンファンドが進めてきたおひさまプロジェクトのスキームで案外うまくいくことが分かり、企業との新しい展開に希望が湧いてきました。もう少し言えば、発電収入から地域への還元分が見いだせるのか、大きな工場で、10kW規模の太陽光発電がどのような効果を上げることが出来るのか、予測がつかなかったのです。しかし、試算では相応の効果が見込まれ、(実績値から判断しないと何とも言えませんが、)企業とでもどうやら「win,win」でやれそうです。これは、還元分の確保とともに、他の企業とのプロジェクトにも広げていける目途がついたという事でもあります。

プロジェクトのパートナーとの出会いに苦労しているきょうとグリーンファンドとしては、これからは企業とのコラボにも期待したいものです。

吉川商店おひさまプロジェクト 収支報告 (10kW規模) 2018年12月

収入の部		支出の部	
寄付金(51件)	342,000	設備設置費 (EMS計測制御機器含む)	3,877,000
設置協力金(7口)	657,000	印刷製本費	187,000
おひさま基金助成	518,000	謝金	35,000
設置施設資金	2,996,000	通信運搬費	24,000
吉川商店資金	1800,000	旅費交通費	11,000
京都府自立型再生可能エネルギー導入等補助金	1,196,000	記録費	54,000
		事務局経費	315,000
		雑費	10,000
合計	4,513,000	合計	4,513,000

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

(単位:円、千円以下原則四捨五入)

# 身近な森から感じていること

～法然院森のセンター「おひさま発電所」と共に～

フィールドサイエティ 久山 慶子

きょうとグリーンファンド、法然院、フィールドサイエティの三者によって法然院森のセンターにおひさま発電所1号機を設置する「ムササビソーラープロジェクト」が展開されたのは、2001年のことでした。脱原発を次世代への希望にしたいと語り合ったことが思い出されます。その後、私たちは原子力発電所の大きな事故を経験しました。発電方法に衆目が集まるようになった一方、電気がなければ立ち行かない社会を前に安定供給への要求は高く、自然エネルギーの普及はまだ道半ばのようです。もう一度、社会の主体が人間という生きものであること、生きものである以上、自然環境が生存に関わっていることを思い出さなくてはなりません。自らの生物性を自覚することが極端に少なくなり、そのことを忘れたまま負の遺産を次世代に背負わせて、取り返しのつかない事態を招かないよう気を引き締めなくてはならないと感じます。



法然院森のセンターの太陽光パネル

京都に住む私たちは、たとえば三山の森を身近な自然環境の大切さに気づくための教室にしたいものです。法然院森のセンターではお寺の森を教室に子どもたちも交えて観察活動を行い、環境について学び、市民が地域の森の保全に参画する機会も持ってきました。エネルギー問題を森と人との関係性において考えたいという思いもますます強くなっています。縄文時代に広がった広葉樹林の恵み、すなわち食料、材、そして燃料(エネルギー)によって私たちは集団生活を始めることができたと言われるのです。以来、ずっと人は近くの森に支えられ、森はその影響下で生態系を成立させてきた…、森と人との関係性の深さに驚かされます。

しかし、森をしりめに成立した現代都市はその資源に頼らない構造を備え、身近な森はすっかり放置されてしまいました。ギリシャ語に「シナントロプ・人と共に生きるもの」という言葉があります。人の生活圏である都市や耕作地の下で繁栄する動物や野草を指すものですが、今一度、森を「共に生きてきたもの」と感じ直すのはどうでしょう。もしも古代の人々が森を収奪の対象としてだけでなく共に生きるものだと捉えていたら、森林を維持することにもっと必要性を感じたかもしれない、そして世界史も変わっていたかもしれない、そんな仮説は私たちにとって「まだ間に合う」という励みになりそうです。

現代は、多くのデータを分析してシミュレーションを行い、予測を立てることが可能になっています。予測される気象や地殻の変動、生物種の減少、それらが引き起こすとされる災害や弊害に「まだ間に合う」よう私たちが為すべきことは何なのか、できるだけ具体的に考えるためには、地域の生きものたちの存在に気づき、生きものの視点で環境を見ることが不可欠だと思います。お寺の森のムササビも、フクロウも、ヒキガエルも、そしていろいろな菌類も植物も、快適さに眩んだ人間がごまかしていたい異変の徴候にすでに身体を張り、かつ、ありのままに生きることによって私たちに様々なことを伝えてくれているからです。

そんな中、昨年9月の台風21号は東山一帯にも大きな爪痕を残しました。気象にまで人間活動の責任が問われる時代ですが、生きものたちの適応力によって風倒被害の攪乱から植生が回復し、本来的に宿る森の力に翳りが見られないよう願うばかりです。残念ながら、各地で起きる自然災害に考えさせられることが増えました。人間側の論理だけで改変してきた環境の危うさ脆弱さを反面教師に、人の手によって本来の姿を取り戻していくべき場所もたくさんあるでしょう。

野生の生きものに出会う度、それを喜びとできることの大切さを、野性に共振する子どもたちの姿に出会う度、たくさんのいのちに触れて育つことの大切さを思います。他のいのちと共に太陽エネルギーを享受し続けるため、どのように身近な環境に向き合い、どのような暮らし方を選択すべきか、「おひさま発電所」は、すっかり馴染んできた大人にとっても、掲示やパネルに興味を示してくれる子どもたちにとっても、変わらず大事な問いを投げかけてくれています。

# 大阪での市民共同発電所設置の動き

自然エネルギー市民の会 事務局次長 中村 庄和

## ●自然エネルギー市民の会の紹介

自然エネルギー市民の会(以下PARE)は地球環境市民会議(CASA)と気候ネットワーク、おおさか市民ネットワークなどの支援のもと、「市民による自然エネルギーの普及を通じて、進行する地球温暖化を防止し、エネルギー問題を市民の手に取り戻す」ことを目的に2004年に設立されました。これまでに5つ(合計350kW)の市民共同太陽光発電所を設置し、また得たノウハウを公開し、他団体のとりくみを支援してきました。ここでは、大阪府が「おおさかエネルギー地産地消推進プラン」の具体化として2016年よりはじめた「地域環境活動を広げる府民共同発電所補助事業」を活用したとりくみを紹介します。

## ●大阪府の「地域環境活動を広げる府民共同発電補助事業」

制度の趣旨は「買取価格低下等から大規模な太陽光発電事業が成立しにくい状況が見込まれ、今後は自家消費を主目的とした中小規模の設備導入など新たな展開が求められている」「一方、NPOをはじめとした公益的団体は、資金調達、人材確保、活動拠点の不足等により、思うように活動を展開できないといった課題がある」「これらの課題に対応するため府民等から寄付や出資を募って、公益的施設に太陽光発電を設置し、その余剰売電収入等を活用して、施設と連携して活動を行うNPO等を公募し、経費の一部を補助する」というものです。補助事業の対象・要件は次のようになっています。

- ① 府内の公益的施設に太陽光発電設備を設置すること。発電した電力は主として公益的施設で自家消費し、余剰売電のみ認める。
- ② 設置費用のうち、補助団体の初期負担額（対象経費から当補助金を差し引いた額）の10%以上を、10者以上の府民等からの寄付又は出資によるものであること。
- ③ 設備設置後5年間、公益的施設と連携して環境活動を含む連携活動等を実施すること。毎年、発電量や連携活動の実施状況等を報告すること。
- ④ 補助件数2件、補助金額・補助率は1件当たり補助対象経費の2分の1（上限100万円）

## ●制度を活かし、思いを形に

年度	申請者	設置場所	設備容量	
2018	公益財団法人 公害地域再生センター ※市民共同発電みのお	社会福祉法人あゆみ福祉会 看護小規模多機能型居宅介護施設「ソラエ」 社会福祉法人あおば福祉会 箕面保育園	大阪市西淀川区 箕面市箕面	5. 55kW 9. 99kW
	NPO法人 自然環境会議八尾 ※NPO法人 自然エネルギー高槻市民の会	社会福祉法人 ふじ福祉会 ふじ第2保育園 社会福祉法人わかさ福祉会 わかさホーム	八尾市山城町 高槻市大字唐崎	6. 48kW 9. 45kW
2016	NPO法人 すいた市民環境会議 ※NPO法人 豊中市民エネルギーの会	社会福祉法人ぶくぶく福祉会 ドリーマーぶくぶく 学校法人蛸池学園 あっぷるこども園	吹田市南高浜町 豊中市蛸池中町	9. 4kW 8. 16kW

※市民共同発電みのおは現在NPO申請中

※自然エネルギー高槻市民の会、豊中市民エネルギーの会は補助金申請時は任意団体でNPO申請中でした。PAREが具体的に支援したのは市民共同発電みのお、自然環境会議八尾、自然エネルギー高槻市民の会、豊中市民エネルギーの会の4団体。

この制度を活用するには、市民共同発電所を作りたいという地域の団体が不可欠です。福島原発事故から大阪では原発をなくし自然エネルギーを推進する大阪連絡会(原発ゼロの会おおさか)や地域の新日本婦人の会のみなさんが自然エネルギー普及について熱心に学習会などにとりくまれており、自分たちで市民共同発電所を作りたいという機運がいくつかの地域で盛り上がっていました。ただ実際に作るには、賛同施設探し、資金集め、施設との契約、工事業者の選定、設置後の管理、またNPOなど法人格のある団体作りと、どこから始めていいのか手探りの状態でした。PAREは要請のあった団体にはこれまでの経験から積極的に支援しました。

### ●施設側の理解を得るのがポイント

設置施設は、園長と知り合いなど地域の人と人の繋がりを活かすことで探しました。また大阪府は園長会や福祉法人の集まりなどで制度を周知するとりくみを行いました。協力可能という施設があれば、府の担当者、PARE、地域団体の方、場合によっては施工業者にも入ってもらい現地調査を実施しました。

事業スキームは(PAREが支援した4件)、NPOが施設側に設備設置の賃料(とても安い)と施設に自家消費分を今契約している電力会社より若干低価格で買ってもらう、余剰売電分はNPOにもらうというものです。施設側にとってみれば、賃料と若干電気料金が安くなる程度で経済的メリットはほとんど生まれません。それでも自然エネルギー普及と環境価値に理解を求めて協力をお願いします。これは施設側にとっては高いハードルで、園長が積極的であっても理事会で否決されてしまうこともありました。

資金は10年程度で返済する建設協力金(金銭消費貸借契約)と寄付で集めました。建設協力金の返済は売電収入でまかないます。事業費は200~300万円程度かかりますが100万円の補助金を得ると地域団体内で協議していても資金調達の目途が描けます。さらにNPOの収支もたちます。

2019年度も大阪府は制度を継続するとしていますが、若干要件を変更するとのことです。



2018年度 環境学習

## ～子どもたちに伝える地球温暖化～

腹話術師 畠山 智子

保育園や児童館などで、ストップ地球温暖化のメッセージを伝える環境腹話術を15年続けてきました。

保育園児などに地球温暖化を解説し、二酸化炭素の排出を減らす生活を考え、太陽光発電の必要性を理解してもらい、これは容易なことではありません。なぜなら、興味がなければざわつのが子どもです。

そこで環境腹話術を演じるにあたって考えたのは以下のことです。

- 腹話術の人形やソフトパペットと会話形式ですすめる
- 見てわかる視覚教材を活用する
- むずかしい環境用語は優しい言葉で表現する

例：地球温暖化→地球のおねつ

温室効果ガス→地球の周りがあるガスのお布団  
節電・節水→電気や水の無駄使いはやめる 等々  
但し、CO2という言葉は耳に残してもらいたいののでそのまま使っています



保育園に設置されたおひさま発電所も何年か経つとあることがあたりまえになって、地球環境に役立っているという意識が薄れてきています。一年に一度環境学習として保育園を訪れて子ども向けに話をしていますが、実は保育士の方にエコの意識を再確認していただき、日ごろの保育の中でも節電や節水やごみ減量などを取り入れてほしいというねらいがあります。腹話術の中でも人形が「先生は地球にやさしいこと何かしていますか?」って名指しして聞くことがありますよ。環境腹話術で子どもたちに伝えたことが、家庭にも伝わり、我慢するエコではなくあたりまえにできるエコライフを実践してもらえればうれしいです。

これからもわかりやすい視覚教材の工夫と子どもたちを惹きつけるシナリオ作りをグリーンファンドの協力のもと続けていきたいと思います。



# 「新電力」に切り替えを！再エネはまだまだ足りない！

再エネ工房 林 敏秋

2016年4月に始まった電力小売全面自由化は、2018年7月で全販売電力量に占める新電力のシェアが15.5%となるまで進んできました。登録電気小売事業者（新電力）は昨年12月21日段階で550業者になりました。

2012年7月からスタートした固定価格買取制度（FIT）が太陽光発電を中心に再エネの導入を後押しし、2017年末で大規模水力発電を除いた設備容量は5,600万kWになりました。設備利用率が違うので一概に比較はできませんが、2011年の原発の出力容量が約5,000万kWだったので数字上はそれを超えたといえます。

一見順調に進んでいるかのようにですが、電力小売の現場では、関電などの大手電力会社(旧一般電事業者)の強烈な巻き返しが進んでいます。特に高圧受電設備（50kW以上）では、破格の値引きが行われて小さな新規参入の新電力は太刀打ちできない状態になっています。更に、大手電力の「取り戻し営業行為」が横行し、経産省もこの行為を規制するために、電気の需要家の保護を目的とした小売営業ガイドライン「電力の小売営業に関する指針」を改定せざるを得なくなりました。「取り戻し営業」とは、電気の需要家(ユーザー)が新電力にスイッチング(切り替え)する期間を利用して、新電力が対抗できない安い小売価格を関連会社などに提案させ、スイッチングを撤回させることをいいます。

電源を殆ど持たない新電力は、大手電力が提供するバックアップ電源か、少し高めの卸電力取引所から電気を購入して需要家(ユーザー)に供給しなければなりません。大手電力に勝てるはずがありません。公正な競争を目指すのなら、何らかのルール作りや政策的な規制が必要だと思います。このままでは550社の新電力は、2020年の発送電分離以降は殆ど消えてしまう可能性があります。

現在の日本の再エネ電源比率は、2017年度で15.6%、大規模水力を除くと約8%となっています。まだまだ足りません。もっともっと再エネを拡大しなければなりません。電力会社を選ぶ時に再エネの電源構成比率を気にするのは当然です。大きな選択のポイントであることは間違いありません。しかし、私たちは、電源構成比率よりも新電力の再エネ拡大に対する姿勢こそを見るべきだと考えています。

きょうとグリーンファンドが提携している「太陽ガス」(HappyEnergyでんき)は、ホンキで再エネ普及を考えている会社です。この度、太陽ガスに支払う電気代の一部がおひさま発電所設置のために還元される仕組みができあがりました。その名も「おひさまでんきプロジェクト」です。既に吉川商店おひさま発電所、安朱保育園おひさま発電所がその対象となっています。毎日使う電気代が、再エネ拡大につながるのです。さらに、きょうとグリーンファンドが所有する「イサクおひさま発電所」(10kW)、「上鳥羽北部いきいきおひさま発電所」(10kW)、合計20kWの太陽光発電設備で発電した電気を太陽ガスがプレミアム付きで購入してくれることになりました。一部ですが、太陽ガスに切り替えていただいたお家におひさま発電所のグリーンな電気が供給されることになったのです。今後、関西エリアの切り替え件数が多くなって行けば、さらに他の市民共同発電所の電気も太陽ガスが購入していくことができます。

まだ、太陽ガスに切り替えが済んでいない方は、是非、切り替えをお願いします。手続きはパソコンやスマホからホームページ<https://happy-energy.jp/energy/>を通じても可能です。必ず「電気ご使用量のお知らせ(検針票)」をご用意ください。手続きの最後の備考欄に「きょうとグリーンファンドの紹介」と記入することもお忘れなく。

パソコンやスマホはどうも？という方は

きょうとグリーンファンド事務局 (TEL 075-352-9150)

関西地区HappyEnergy提携店・再エネ工房(TEL 090-8197-0560 担当：林敏秋)

までご一報ください。ていねいに説明させていただきます。

## ～環境学習、何を伝えるか、どう伝えるか?～

きょうとグリーンファンドでは、環境学習を大切にしています。環境問題に対する関心を高めるためのさまざまなパンフレット、セミナー、シンポジウムがありますが、個人の意識や行動が変わるまでには、「なかなか」届きません。どうしたら、伝わるか……。さまざまな試行錯誤からグリーンファンドの環境学習プログラムが、うまれました。

環境腹話術は他の団体からも引き合いがあるほど人気で、腹話術師の島山さんとパペットたちのやり取りで、なぜ温暖化したのか、何をすればよいのかを考える30分の内容です。

先生方との教材作りワークショップからは、紙芝居やエコすごろくなどがうまれ、全部で7種類になったエコすごろくは、日常の保育にも活用されています。

また、前理事長板倉豊先生の自然観察会は、園児たちに大人気。自然の中では、色々な生き物と一緒に人も生かされている事を肌で感じてくれたらいいな…と思います。

～子どもたちの未来のため～  
に環境学習をこれからも、創意工夫を重ねます。



(きょうとグリーンファンド 深川 佳子)



### ◆事務局よりお知らせ

昨年度途中より会計担当が交代しました。新しい会計担当、「ゆみちゃん」こと森さんは、明るくパワフル。事務局もますますパワーアップ!?今後ともよろしくお祈りします。

#### ♠はじめまして

・・・森 由美さん

この度、会計業務の担当になりました、森由美です。京生まれ京育ちですが、現在は大阪で生活しています。買い物は、マイバックを持ち自転車に乗り出かける等エコな生活をしています。現在、京エコロジーセンターのボランティアもしています。

業務処理や数字の管理に意識が向き、グリーンファンドの「子どもたちに原発も温暖化もない未来を」の思いを見失いそうになりますが、事務局の皆様にご支援いただき、多くの会員様ともお近づきになれる事で、私の無形の財産が増えつつあります。今後どうぞよろしくお祈りします。

#### 📎 編集後記

・今年の冬は、少し暖かくていい具合、と思っていたらアフリカやオーストラリアで、大干ばつ、多くの人が危機的な状態におかれているとか。モーレッツ台風は今年も来る、かもしれないなどという話ではなくなってきました。温暖化の影響は予測不能…になりかけている。(K.O)

・平成は、災害の多い時代だったと言われますが、新しい年号になれば、さらに多くなるのではと思いますが…。今のままでは。(Y.F)

・母は90歳を超えてから極端に寒さ、暑さに弱くなって来ました。お年寄りには快適に過ごしてもらいたい…。省エネとの共存が難しいです。(T.Y)

・年末にお墓の掃除に大谷祖廟に行ってきました植え込みに子供が集まっているので近づいてみると、かわいい山羊さんが東本願寺から出張で除草のお仕事をしました。草を沢山食べてよく育ったら焼肉にするのがエコかな?と食いしん坊な私は思ってしまいました……。 (Y.M)

・電力会社を変えたいのだけれども一つ、というあなた!迷わず事務局までお電話ください。(T.H)

・愛知出身の私は台風には慣れているはずなのに昨年の台風は、さすがに怖かった… 今年は何?温暖化が進む中、もっとすごい台風がくる?年の初めから縁起でもない…!? (S.K)

# 《 ぐりふあん日誌 》

(2018)

- 7/13 役員変更届提出/法務局
- 7/21 上鳥羽夏の夜市/村山公園
- 7/24 再生可能エネルギーWG定例会議/気候ネットワーク
- 8/2 役員変更届提出/京都市
- 8/4 自然エネルギー学校・京都2018第2回/京エコロジーセンター
- 8/8 吉川商店おひさまプロジェクト打合せ/吉川商店
- 8/18 自然エネルギー学校・京都2018第3回/京エコロジーセンター  
上鳥羽エコロジー体験イベント参加/上鳥羽北部 きせ
- 8/19 上鳥羽エコロジー体験イベント参加/上鳥羽北部 きせ
- 8/21 イサク事業所訪問
- 8/22 「太陽光発電2019年問題」勉強会/京エコロジーセンター
- 8/23 環境腹話術/向島保育園
- 9/11 自然エネルギー学校検討会議/気候ネットワーク
- 9/12 吉川商店おひさまプロジェクト打合せ/吉川商店
- 9/14 地球こやさしいおひさまプロジェクト打合せ/安朱保育園
- 9/15 自然エネルギー学校・京都2018第4回/京エコロジーセンター
- 9/19 自然エネルギー学校・京都2018見学会
- 9/27 KGPN幹事会
- 10/2 再生可能エネルギーWG定例会議/気候ネットワーク
- 10/4 株式会社トヨタ訪問
- 10/9 吉川商店おひさまプロジェクト打合せ/吉川商店
- 10/16 環境腹話術/陵ヶ岡こども園
- 10/17 自然観察会/つくし保育園

- 10/20 IPCC総会京都市開催記念「気候変動から見たSDGs～世界を変える市民のチカラ」参加、事例報告
- 10/25 吉川商店おひさま発電所点灯式
- 10/31 自然観察会(大宮保育園)/府立植物園  
「くしの匠～省エネ実感生活」参加/上鳥羽北部 きせ
- 11/7 環境腹話術/つくし保育園  
再生可能エネルギーWG定例会議/気候ネットワーク
- 11/12 地球こやさしいおひさまプロジェクト学習会  
・環境腹話術/安朱保育園
- 12/5 「くしの匠～省エネ実感生活」参加/上鳥羽北部 きせ
- 12/6 吉川商店おひさまプロジェクト打合せ/吉川商店
- 12/11 再生可能エネルギーWG定例会議/気候ネットワーク
- 12/12 第123回理事会
- 12/15 ハッピークリスマスのついで参加/上鳥羽北部 きせ
- 12/17 地球こやさしいおひさまプロジェクト打合せ/安朱保育園
- 12/24 シンポジウム「SDGsでつながる京都とイスカンダル・マレーシア」～京都発環境教育から低炭素社会づくりへの挑戦～参加/メリパルク京都

(2019)

- 1/17, 18 環境首都創造フォーラム2018参加 /しんらん交流館

## □ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によって  
ささえられています。

おひさま基金へのご寄付は ゆうちょう振替をご利用下さい。

**ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817**  
**加入者名:きょうとグリーンファンド**

★2015年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。  
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数 42

正会員 42 賛助会員 24

法人会員 5 2019/1 現在



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21 事務機のウエダビル206  
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org  
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

